

香川短期大学

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 尽誠学園
理事長 大久保 直明
学 長 北川 博敏
A L O 石井 俊明
開設年月日 昭和 42 年 4 月 1 日
所在地 香川県綾歌郡宇多津町浜 1 - 10

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
経営情報		60
生活文化	食物栄養	50
生活文化	生活介護福祉	40
生活文化	生活文化	50
幼児教育		50 部
幼児教育		40 部
	合 計	290

専攻科および入学定員

専攻	入学定員
福祉	30
	合 計 30

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

香川短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

香川短期大学の設置母体である学校法人尽誠学園は、明治 15 年に創立者大久保彦三郎氏が開設した私塾に始まり、今日では短期大学の他、幼稚園、中学校、高等学校、専門学校を擁する学校法人である。当該短期大学は、学校法人尽誠学園の短期大学部門として昭和 42 年に開学し、生活文化学科、幼児教育学科第 部、幼児教育学科第 部、経営情報科、専攻科(福祉専攻)を設置している。

創立以来、中江藤樹の「大学解」にある明德(至誠)の概念に根ざした「愛・敬・誠」を建学の精神として掲げ、目的として「教育基本法の本質に則り、学生に高い教養を授けるとともに、専門の職業教育を施し、有為な社会人を育成すること」を設定している。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

「愛・敬・誠」をモットーとして 120 年の伝統を踏まえ、建学の精神・教育理念は確立しており、明確に示されている。教育目的・教育目標は、全学的及び学科・専攻ごとに示されている。また、学生、教職員への周知も継続的に行われており、定期的な点検、見直しの結果に基づき、各学科で改正案が立案されている。

教育の内容、教育課程に関しては、各学科・専攻とも短期大学として十分な内容であり、免許・資格の取得にも配慮されている。

学生支援について、受験生に対して情報を大学案内、オープンキャンパス、進路説明会等様々な方法で提供している。学生に対する支援、特に働きながら学ぶ学生に対し、2 部制の授業を開講し、資格取得に配慮がなされている。その他、留学生や障害者に対する学習環境、生活環境の整備も行き届いている。進路支援体制としては、個別指導に徹し、行き届いた指導がなされており、学生からの信頼も強い。

活発な学会発表がなされており、委託研究、共同研究にも積極的に取り組んでいる。また、一律の個人研究費の他に「特別研究費」が設けられ、研究補助金が制度化されたことは評価できる。

社会的活動については、「地域社会に共存する大学づくり」を念頭に、明確に位置づけられており、開放講座、土曜講座、科目等履修生受け入れ等に積極的である。また教員は地方公共団体の審議会委員に積極的に参加し、学外活動を活発に行っている。学生のボランティア活動は、あくまでも教育の一環であることを学生に認識させ、その前後の指導を徹底することによって、教育効果を高めている。留学生の受け入れも適切に行われており、海外教育研究機関との短期海外研修の実施、それに伴う教員の海外派遣、国際会議出席等を行っている。

理事長のリーダーシップ、理事会及び評議員会の開催運営、理事構成等概ね適正と判断される。事務の諸規程も概ね整えられており、規定に基づいて業務は遂行されている。事務室のスペース、機器も整っている。防災対策、安全対策等も適切に行われている。

自己点検・評価の実施体制については、規程及び組織を整備しており、平成 11 年度に自己点検・評価報告書を作成している。評価委員会を組織するとともに、今回の評価を受けるにあたって更に委員を拡大し、多くの教員が関与している。自己点検・評価の結果、課題を検討し、改善、改革に向けて取り組む努力をしている。また、平成 13 年度から地元有識者を委員とする「香川短期大学教育推進協議会」を組織して外部の評価や意見を積極的に取り入れる努力をしている。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の実施体制

- ・ 情報処理教室は整備されている。(学内 LAN 及びサイボウズの設置等)。
- ・ 校舎全体が清潔で、快適な環境を確保している。

評価領域 教育目標の到達度と教育の効果

- ・ 免許・資格・称号等の取得割合が高く、そのための個人指導がよく行われている。

評価領域 学生支援

- ・ 3 学科ともに担任、副担任制を敷き基礎学力不足の学生、学習上の悩みをもつ学生、学習進度の速い学生に対して、個別指導がなされており、特に補習授業がきめ細やかに行われている。
- ・ 学生の履修科目や履修登録に対して、入学時のオリエンテーションだけでなく、半期毎

の指導やチェックを行っている。

- ・ 就職指導が徹底されており、極めて高い就職率を継続している。

評価領域 社会的活動

- ・ 「コミュニティー・カレッジ」として、「幼児教育学演習」受講者による「こども劇場」を学外の県民ホールで毎年開催し、延べ 1700 人の幼児が参加している。
- ・ 教員の地域社会活動が意欲的に実施されている。
- ・ 学生はボランティア活動に積極的に参加している。この体験は企画力、実践力を向上させ、学生の成長に大きな影響を与えている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

- ・ 「学生による授業評価アンケート」等の結果を踏まえてファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)等の取り組みをさらに促進されることを望む。

評価領域 学生支援

- ・ セクシャルハラスメントに関する規定の整備と組織的対応の充実が求められる。
- ・ 極めて高い就職率の維持にそなえて、後継指導者・担当者の育成が望まれる。

評価領域 管理運営

- ・ 事務部門の管理職は全て教員が兼務している。将来的には専任事務職員が中心的役割を果たすことが望ましい。

評価領域 財務

- ・ 財務体質の健全化に努められたい。
- ・ 幼児教育学科の定員超過を是正されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし